

令和7年度 小松市立高等学校 学校評価(年度末)

重点事項	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	取り組みの現状と今後の方向	中間評価	最終評価	分析(成果と課題)と次年度へ向けて	判定基準	備考
1 思考力・判断力・表現力を伸ばす等の授業改善に努めることやICTの利活用及び探究活動を充実させることで、確かな学力の育成を図るとともに、主体的に学習を進める態度を育み、協働的な学びの良さを実感させる。	1 生徒の主体的に学習を進める態度を育むために、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を推進する。	教務課 各学年	素直で真面目な生徒は多いが、授業において受け身の姿勢でいる傾向が見られる。自ら考える姿勢と積極的な取り組みを引き出せるような授業実践に向けて、より一層の工夫が必要である。	【満足度指標】 生徒が各教科・科目の授業に対して積極的に取り組もうと思っっている。	授業評価の質問10「この教科・科目に積極的に取り組もうと思える」における全体の平均値が A 3.6以上 B 3.55以上 C 3.5以上 D 3.5未満	7月の授業評価の結果は3.62だった。昨年度の授業改善に向けた取り組みが定着してきていると考えられる。今後も生徒の積極性を引き出せるような授業を実践し、より一層の学習意欲向上を目指したい。平均だけでなく、すべての教科で3.6以上となる授業を目指したい。	A (3.62)	A (3.61)	12月の授業評価の結果は3.61だった。7月と比較すると、5教科は3.58→3.57、実技教科は3.72→3.70であった。今後も生徒の学習意欲向上を目指し、授業改善に向けた取り組みを続けていきたい。	授業評価	
	2 「総合的な探究の時間」における個人発表やグループ発表、フィールドワーク等を通して、生徒の表現力を育成する。	教務課	昨年度授業や総合的な探究の時間における個人発表やグループ発表を通して、話したり発表したりする力がついてきたと感じる生徒は、8割程度いる。90%以上を目指すために、探究活動のさらなる充実が必要である。	【満足度指標】 総合的な探究の時間において、主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長している。	総合的な探究の時間における生徒の主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長したと思う(よくあてはまる、ややあてはまる)生徒・教員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	(よくあてはまる、ややあてはまる)と回答した割合は、生徒79.4% 教職員92.1%であった。今後、フィールドワークで得た情報の整理・分析や考察の場面で活発な意見交換ができるよう指導するとともに、11月の中間報告会に向けて、生徒の表現力や発信力が十分に発揮できるよう指導していく。	生徒C (79.4%) 教職員A (92.1%)	生徒C (77.9%) 教職員C (67.6%)	(よくあてはまる、ややあてはまると回答した)生徒・教職員の割合は、生徒79.4→77.9% 教職員92.1→67.6%であった。生徒の発表機会を増やし、教職員の発表評価方法も工夫する必要がある。また、校内研修で洗い出した改善点を基に探究活動全体を見直し、生徒の活動を活性化させたい。	学校評価 アンケート	
	3 大学入学共通テストに対応できるように、1,2年生のうちに生徒の大学進学意識を向上させ、学力の定着を目指す。また、成績上位層から中間層の生徒を増やし伸ばすべく、模試分析に基づいた授業改善を行い、学力向上を目指す。	進路指導課 1学年 2学年	1年生では、進路希望を念頭に置いて文理選択できるよう指導するとともに、学力伸長に向けて継続的に努力するよう指導している。2年生では、具体的な目標を持たせ、様々な進路希望、学力層に応じた学習指導をしている。1,2年生で大学受験に対応できる基礎学力をつける必要がある。	【成果指標】 学年終了時まで組織的、系統的な指導によって学力が伸び、大学受験の基礎が築かれている。	模試による国語・数学・英語の各偏差値が50以上の生徒数が 国語: A 40人以上 B 35人以上 C 30人以上 D 30人未満 数学: A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満 英語: A 30人以上 B 25人以上 C 20人以上 D 20人未満	7月進研記述模試の結果はまだ公開されておらず、人数の把握はできていない。結果判明後、模試分析による授業改善などを通じて各教科の苦手分野の補強を図り、11月模試に向けて成績を上昇させたい。	年度末に 評価	1年 国語 A 数学 C 英語 C 2年 国語 A 数学 D 英語 C	偏差値50以上の人数の推移(7月→11月→1月) 1年生 国語33名→26名→44名 数学19名→15名→24名 英語17名→19名→22名 2年生 国語49名→40名→41名 数学16名→16名→11名 英語34名→28名→24名 1年生、2年生ともに、課題は数学と英語である。苦手分野に的を絞った春休み課題やその学習方法を提示し、新年度を迎える準備をさせたい。特に新3年生は集会を行うなど受験を意識させ、学年全体で頑張る雰囲気醸成したい。	進研模試	
	4 キャリア教育を通じて高い志を持たせるとともに、進路実現に向けて粘り強く学び続けるよう支援する。	進路指導課 3学年	ここ数年、大学進学希望者が増加傾向にある。コロナ禍を経て県内志向が強まっているが、全国を視野に入れて挑戦する姿勢を育てる必要がある。	【成果指標】 自らの生き方や将来に対して高い意識を持つ生徒が、授業や補習、個別指導等を通して学力を伸ばし、国公立大学に現役で合格している。	国公立大学現役合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	3年生進路希望調査では、国公立大学に46名が志望している。各大学の受験情報を把握し、課と学年が連携して生徒の進路実現をサポートする。総合型選抜や学校推薦型選抜などの年内入試にも対応できるよう指導体制を整えたい。模擬試験や放課後補習、学習会などの機会を通じて、生徒が自身の学習を振り返り、入試本番まで学力向上に粘り強く取り組むことができるよう引き続き伴走支援をしていきたい。	年度末に 評価	年度末に 評価	3月末に結果を記入	国公立大学 現役合格者数	

令和7年度 小松市立高等学校 学校評価(年度末)

2	グローバル社会に対応できる自己発信力を高める。特に英語によるコミュニケーション能力を育成し、英語力向上を図る。	1	英検資格取得に向けて、長期での継続的かつ段階的な取り組みを行う。1年次の英検に向けた単語学習の定着から、2年次の英検での上級取得、GTECのスコアアップへと繋げていく。	英語科 教務課 進路指導課	1年次は英語検定を1回、2年次は10月の実用英語技能検定と12月のGTECを受験し、生徒の資格取得に向けた英語スキルアップを低学年から行っている。生徒の進路実現に際しても英語の資格が有利に働くよう指導していきたい。	【成果指標】 実用英語技能検定およびGTECの受験を通して、2年次修了までに50%の生徒がCEFR A2レベルに到達することを目標にして、五領域のスキルアップを目指す。	2年次修了までにCEFRA2レベル以上の生徒が A 100人以上 B 80人以上 C 60人以上 D 60人未満	5月末に2年生(152名)が受験した英検IBAでA2 57名(5月末)。引き続き10月の英検に向けて、単語学習や問題集等で問題形式にも対応できるようにしていく。 1年生は単語学習を中心に英検に向けて取り組んでいる。11月に英検IBAを受験予定。	年度末に評価	B (92名)	12月に125名が受験したGTECでA2レベル以上の生徒は87名であった。第2回英検で準2級以上を合格し、重複していない生徒5名を追加するとA2レベル以上は92名となった。 なお、2年生の第1回、第2回の英検級別合格者は2級5名、準2級プラス1名、準2級28名であった。	実用英語技能検定 GTEC
3	1 2	1 2	品位ある服装、爽やかな挨拶、時間厳守など、進路実現に直結する生活姿勢の改善に生徒自らが意識して取り組むよう指導する。遅刻をなくすために、年間を通し職員による登校指導や生徒の個別指導を行う。	生徒課 生徒課	制服を正しく着こなす生徒もいるが、そうではない生徒も多い。遅刻者の件数は減少傾向にあったが、一昨年より増加に転じ、昨年度はより増加した。常習的に遅刻する生徒がいる。	【成果指標】 1日の生徒の遅刻者の平均人数から判断する。 【満足度指標】 制服の着こなしに対する、教職員評価から判断する。	1日の生徒の遅刻者の平均人数が A 1人以下 B 3人以下 C 5人以下 D 6人以上 「生徒は制服を正しく着ている」という項目に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	8時25分からの朝学習で落ち着いて学習できるように、8時20分までに登校し、速やかに教室に向かうように指導した。1学期の1日平均の遅刻数は2.1人であった。不注意による遅刻は、昨年度より減少している。遅刻の多い生徒は個別指導を行うなどしており、成果の出ている生徒もいるが、数名の生徒は改善が見られていない。今後も粘り強く指導していく。 学校評価教職員アンケートでは、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員は47.4%であった。昨年度の中間アンケート55.3%よりも減少している。生徒が正しく制服着用するよう指導しているでは、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員は94.7%であった。今後も教員全体での共通指導と生徒の意識改革を図って行きたい。	B(2.1名) 1年0.2名 2年0.6名 3年1.3名 D(47.4%)	B(2.6名) 1年0.4名 2年0.7名 3年1.5名 D(27.0%)	1日平均の遅刻数は2.6名であった。中間評価よりも増加しているが、昨年度の5.0名よりかなり減少した。3年生の遅刻が多い。保護者送迎での遅刻が多く、指導が難しいが、今後も指導を続けていく。 学校評価教職員アンケートでは、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた教職員は27.0%であった。今年度の中間アンケートよりも減少した。また、「私は生徒が正しく制服を着用するよう指導している」では、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた教職員は89.2%であった。今後は、より教員全体での共通指導と、正しく制服を着こなしている「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた92.4%の生徒の意識改革を図って行きたい。	学校評価アンケート
4	1 2	1 2	部活動をさらに活性化し、校内外の発表やボランティア活動等に積極的に取り組む。 芸術コース入学希望者の確保のために、本校専攻生による出身中学校訪問・部活指導等、生徒主体の情宣活動を行うとともに、教員による体験入学希望者確保のため中学校訪問を行う。	生徒課 芸術コース	部活動の発表やボランティアなどの活動は再開されており、積極的に活動に取り組んでいる。 定例行事に加え、積極的に対外行事や地域貢献活動、中学校訪問などの取り組みを増やし、芸術コースの魅力や世に発信していきたい。	【努力指標】 部の発表や活動を通して生徒の発信力が養われる。 【努力指標】 地域貢献活動や中学校訪問を通して、芸術コースからの発信力を高め、中学生の芸術コースに対する興味関心が向上している。	すべての部による発表やボランティア活動等の実施回数のがべ A 35回以上 B 30回以上 C 20回以上 D 20回未満 11月の芸術コース体験入学参加者数 が A 60名以上 B 59～50名 C 49～40名 D 39名以下	部活動の発表やボランティアなどの活動に、積極的に取り組んでいる。 7月23日開催の体験入学申込者数は、音楽70名美術62名と、昨年に引き続き、非常に多かった。9月以降は中学校側に向けて積極的に情宣活動を行い、10月の芸術コース体験入学に繋げたい。	年度末に評価 年度末に評価	A (49回) B (54名)	多くの部活動が、積極的に取り組みを行っている。 今年度芸術コース体験入学参加者は、音楽29名美術25名の計54名と、昨年度53名とほぼ同数であったが、日曜開催に変更してからは、多くの保護者の出席があり、喜ばしいことであった。結果としてはA評価には届かなかったが、今後も多くの地域貢献活動を継続していくことで、地域に愛されるコースを目指し、参加数増に繋げていきたい。	
5	1	1	授業や探究活動、ホームルーム活動での教材などの共有や作業の分担など、教職員の協働する力を高めることで業務の効率化に取り組む。	教頭	昨年度は、それぞれの授業の工夫事例などをあげて教員研修を行うことで、授業改善に取り組むことができた。今まで以上に互いに協働することで、より一層の授業改善や負担軽減ができるものと考えている。	【努力指標】 教材の共有や作業の分担などにより、業務を効率的に行い、教職員の協働する力を高める。	今まで以上に教材の共有や作業の分担により、業務の効率化に取り組んでいる(よくあてはまる、ややあてはまる)の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 60%以上 D 60%未満	今年度より教職員の協働する力、それによる校務の効率化を評価するために取り入れた項目である。学校評価アンケートでは、「よくあてはまる」50%、「ややあてはまる」42.1%で、合計92.1%となった。日常的に互いに教材などの共有による分担が行われていると思われる。	A (92.1%)	B (83.8%)	学校評価アンケートでは、「よくあてはまる」24.3%、「ややあてはまる」59.5%で、合計83.8%となり、7月の調査よりも割合は減少した。年度始めや年度終わりに、教材や資料などの共有が多く行われると思われる。今後も互いの業務効率化のために、共有や分担の実施を伝えていきたい。	学校評価アンケート